

目指す子供の姿

- 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができる。
- 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができる。
- つくりだす喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとすることができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解したり、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりする学習活動の充実
 - ◇自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な視点を理解する学習活動を設定する。
 - ◇材料や用具について基本的な扱い方を理解した上で、扱うこと自体を楽しめる活動を設定する。
- ②創造的に発想や構想をする学習活動の充実
 - ◇形や色などの造形的な視点を基に、児童の思いを大切にした学習活動を重視する。
 - ◇造形遊びの活動を年間指導計画上で適切に位置付け、活動の充実を図る。
 - ◇「A表現」及び「B鑑賞」の相互の関連を図る学習場面を設定する。
 - ◇「つくり、つくりかえ、つくる」活動を重視する。
- ③作品などに対する自分の見方や感じ方を深める学習活動の充実
 - ◇自分や友達の表現や作品、親しみのある美術作品、生活の中の造形等を鑑賞する場面を設定する。
 - ◇見方や感じ方について話す学習を設定し、互いのよさや個性などを尊重し合う活動を充実させる。
- ④ICTの効果的な活用による表現及び鑑賞の活動の充実
 - ◇表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育むことを目指す授業改善の手段として、ICTを効果的に活用する。